

学校と経営者の交流活動推進委員会●3月14日開催

第9回教育フォーラム 勉強するのは何のため? 働くってどういうこと?



「学校と経営者の交流活動推進委員会」は、中学生とその保護者、教員らと共に、働くことの意義と教育のあり方について考える教育フォーラムを開催した。杉江和男委員長は「中学生にとっては将来、グローバル社会で活躍するためには何が大切かを学ぶ機会に、また保護者や教員には、子どもたちに学ぶ動機をどのように与えるかを考える機会にしてほしい」と述べ、グループ・ディスカッションでの積極的な発言を求めた。

プログラム	(役職は開催当時)
第1部 基調講演	
テーマ:「未来の一員へ～みなさんの創る未来～」	
講師:加瀬 豊 幹事 (双日 取締役会長)	
第2部 グループ・ディスカッション	
●生徒グループ	
テーマ:「勉強するのは何のため? 働くってどういうこと?」	
●教員/保護者グループ	
テーマ:「これからの社会で求められる力と教育のあり方」	

基調講演

未来の一員へ ～みなさんの創る未来～



講師:加瀬 豊 幹事
(双日 取締役会長)

「トリプルAの時代」に生きる

20世紀は戦争の世紀だった、と言っても過言ではありません。今年で太平洋戦争が終結して70年がたちます。21世紀を平和な世紀にするためには、まず平和な世界をつくるということをしつかりと胸に刻んでほしいと思います。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックを平和の象徴として成功させることは、平和国家日本にとって、大変意義深いことだと思います。

日本では少子化による人口減少が問題になっていますが、世界で見ると21世紀は人口爆発の時代を迎えています。国連では2050年に90億人、世紀末には

100億人を突破すると予測しています。そのうちアジアとアフリカの人口が8割を占めます。21世紀をけん引する地域はこのアジアとアフリカ、そして先進国でも人口が増加しているアメリカであり、私はその頭文字を取って「トリプルAの時代」と呼んでいます。人口の多さは国や地域の力を示し、経済や社会の成長に大きく寄与するからです。

21世紀前半は中国やインド、東南アジア、後半にはアフリカが躍進してくるでしょう。そしてアメリカも21世紀を通して世界経済に大きな影響を与えると見ています。

皆さんは、このように成長する世界市場で活躍できる時代にいる、ということを自覚してください。

グローバル人材に必要な三要素

物理的な移手段や情報通信の発達によって、世界の距離が縮小しています。それはどの国の人にとっても同じ環境で仕事ができることになり、その結果、海外との競争が激しくなるということを意味します。皆さんが社会人になった時には、どの会社でも海外で仕事をする、あるいは海外と仕事をする時代になっているでしょう。

このようなグローバル社会を生き抜くために、まずは英語が基礎になります。海外ではどのような仕事であれ、最低限のコミュニケーションに、英語が必要だからです。

さらに「自己確立」「専門性」「許容力」の三つの要素を身に付けてください。自己確立とは、自分の意見を持ち、人前で話せること。専門性とは、得意分野を持ち、一つの分野でプロフェッショナルになるということ。そして許容力とは、人種や宗教、文化を超え多くの人たちと友好的に付き合い、他民族を受け入れるおおらかさを持つことです。

そうすることで、より良いコミュニケーションができるようになります。

海外で活躍する先輩に続く

私は長年海外で仕事をしてきました。そこで誇りに思うことは、日本人はうそをつかず、約束を守る人種として信頼されていることです。皆さんにも、その素質はありますので、十分に世界

で活躍できると理解してください。

実際に、海外で厳しい競争を生き抜き、切磋琢磨してリーダーシップを発揮している人たちがいます。

東日本大震災の時、アメリカが被災地への医薬品輸送をした「トモダチ作戦」の成功に貢献した医師の有井麻矢さん、宇宙飛行士の若田光一さん、iPS細胞の開発でノーベル賞を受賞した山中伸弥さん、テニスプレイヤーの錦織

圭さんなど、才能と努力で活躍する人たちの後に、ぜひ皆さんも続けてください。

彼らに共通しているのは、明るくてタフな精神力の持ち主だということ。心身とも健康であることが最も大切です。明るく元気に、それぞれの得意分野で活躍し、明るい未来を創ってくださることを信じて、皆さんに期待しています。



質疑応答

Q 私たちが、今後注意した方がよい考えや心構えはありますか。

A 20世紀は科学技術の時代でもありました。21世紀はさらに進

歩するでしょう。社会や生活に科学技術の進歩が影響するということを理解して、勉強してください。

Q 自分の意見を持つために、読書をしたり人の話を聞いたりすることが大切だと思いますが、読書についての意見を聞かせてください。

A 本を読むとき、自分に役立つ、あるいは心に留まる言葉を書

きとどめて大事にしてください。読書によって他人の意見を取り入れることも、後に自分の意見をまとめていく上で役に立つと思います。

Q 自分の得意分野を見つけるためには、どうしたらいいのでしょうか。

A 自分は何が好きかを考え、そして好きなことを伸ばしていくてください。それを意識していると、得意分野になっていくと思います。

グループ・ディスカッション

第2部のグループ・ディスカッションでは、生徒・教員・保護者の各グループに分かれ、講師による問題提起をもとに、参加者から出された課題について話し合った。



参加講師

(50音順・役職は開催当時)

■生徒グループ

- 大塚 良彦 (大塚産業クリエイツ 取締役社長)
- 清原 健 (ジョーンズ・デイ法律事務所 パートナー)
- 島田 俊夫 (CAC Holdings 取締役会長)
- 菅野 健一 (リスクモンスター 取締役会長)
- 杉江 和男 (DIC 取締役会長)
- 同前 雅弘 (大和証券グループ本社 名誉顧問)
- 豊沢 泰人 (ファイザー 執行役員)
- 永山 妙子 (成都天府ソフトウェアパーク 日本商務代表)
- 日高 信彦 (ガートナー ジャパン 取締役社長)

■教員グループ

- 高坂 節三 (日本漢字能力検定協会 代表理事)
- 小林 恵智 (ヒューマンサイエンス研究所 理事長)
- 廣瀬 駒雄 (オーエム通商アクト 取締役社長)
- 藤田 實 (オグルヴィ・アンド・メイザー・アジア/大洋州 相談役)
- 古内 耕太郎 (燦ホールディングス 取締役社長)

■保護者グループ

- 遠藤 勝裕 (日本学生支援機構 理事長)
- 四方 ゆかり (グラクソ・スミスクライン 取締役)